

27. ほうれんそう

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類(キャベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
P7	アリエッティ水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
M1	ヨネポン水和剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫3日前まで	3回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	マラソン乳剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
4	アドマイヤーフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	
15	カスケード乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫21日前まで	2回以内	
1	ダイアジノン乳剤40	散布	収穫21日前まで	2回以内	
15	ノーモルト乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F: 菌類病、B: 細菌病、V: ウイルス病、O: その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
萎凋病 (F) 立枯病 (F) 株腐病 (F)	は種前	1. 土壌消毒する(土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる)。	1. 連作を避ける。 2. 土壌の酸性、過湿、通気不良、高温時の栽培で発生しやすい。
べと病 (F)	4月下旬～ 10月上旬	1. Zボルドー、ヨネポン水和剤の500倍液、ドイツボルドーAの500～1,000倍液、アリエッティ水和剤1,500倍液、ランマンフロアブル2,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000の1,000倍液を散布する。	1. 密植、間引不良などによる通風不良で、多雨多湿の時に発生しやすい。 2. 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーション使用する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ネコブ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
ヨトウムシ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アグロスリン乳剤、又はノーモルト乳剤の2,000倍液を散布する。	1. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、ノーモルトは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
アブラムシ類 (ウイルス 媒介)	生 育 期 間	1. マラソン乳剤2,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ダイアジノン乳剤40の1,000倍液、スミチオン乳剤1,000～2,000倍液、アグロスリン乳剤2,000倍液、アドマイヤーフロアブル4,000倍液のいずれかを散布する。	1. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤーは蚕毒に、ダイアジノンは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
ホウレンソウ ケナガ コナダニ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アファーム乳剤2,000倍液、又はカスケード乳剤4,000倍液を散布する。	1. アファームは蚕毒及び魚毒に、カスケードは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。